

演者ハ腸管ヨリ吸收セラル、蛋白ノ物質ノ血液及尿中ニ移行スル機序ヲ研究シ、竝ニ白血球ニ及ボス影響ニ就キ研究セント欲シ、先ヅ經口のニ投與セラレタル卵白ノ消化管ヨリ吸收セラレ血液及ビ尿中ニ出現スル事實ヲ沈降反應ニヨリテ證明シ、其ノ時間的關係ト併セテ白血球像ノ變化トニ就テ研究セリ。

即チ、家兎ニ於テ卵白一五乃至三〇瓦ヲ投與スルニ尿中ニ早キハ三時間後ヨリ出現シ、血清中ニハ一時間後ニ出現ス。然シテ尿中ニテハ二十四時間乃至四十八時間ニテ消失シ、血清中ニテハ十二時間乃至二十四時間ニテ消失スル場合多シ。幼少ナル家兎ニ於テハ其ノ出現成熟家兎ヨリ早ク且ツ著明ニシテ、人體ニ於テハ其ノ出現及ビ消失成熟家兎ヨリ早シ。白血球數ハ攝取後ノ始メニ於テ多少減少シ後ニ增多シ、漸次平常ニ復ス。

五一、結核菌ノ尿内排泄ト「子フローゼ」トノ關係ニ就テ、

附其膽汁排泄

服部 貞吉君
(名古屋療養所)
志村 亮君

肺結核ニ「子フローゼ」ヲ合併スル時ハ稀ニ尿ニ結核菌ヲ證明スルコトアリ、粟粒結核ニ於テモ之レヲ證明スルコトアリ、最近ホッブス氏ハ重症肺結核ニ於テハ假令腎ハ健康ナルモ八%以上ニ尿ニ菌ヲ證明セリト云フ。

余等ハ海獺十七頭ニ結核菌ヲ接種シ全身結核ヲ起サシメ死後又ハ屠殺後組織的ニ檢セルニ

(一) 大多數ニ「子フローゼ」ヲ起セリ結核性變化ナシ。

(二) 十七頭ノ膀胱ヨリ採尿シ抗酸及抗「アルコホル」菌ヲ檢セシニ六頭ニ之レヲ證明セリ、菌量ハ甚ダ多キモノアリキ。

(三) 菌ヲ排泄セルモノ、「子フローゼ」ノ程度ハ然ラザルモノヨリ高度ナリキ。

(四) 膀胱ニハ輕度ノ表皮剝脫アリタルモ著變ナシ。之レニヨリ海獺ニテハ「子フローゼ」腎ヲ通シテ結核菌ハ甚ダ屢々排

泄セラルモノナルコトヲ推定セリ。

(五) 人ノ肺結核百五例ノ尿ヲ檢セシガ有熱期尿ニハ腎表被剝脫ハ屢々證明セルガ未ダ菌ヲ檢出セルモノナシ、輕度ノ「チフローゼ」ヲ合併セル三例ニ於テモ陰性、「デアツオ」反應陽性ノ末期肺結核十七例ニ於テモ陰性ナリキ、腎結核二例ニテハ陽性ナリキ。

(六) 海狸膽計六例ニ結核菌陽性、肝臟ハ結核性變化ヲ呈シ、膽囊ニハ表皮剝離著明ナルモノ多カリキ。

(七) 海狸ノ心臟血液中ニハ結核菌ヲ屢々證明セリ。

五一ニ對スル附議

大 串 利 一 郎 君

私モ數年前ニ門脈ニ注入セラレタル結核菌ノ運命ニ就テ實驗イタシマシタガ短時間ニシテ其膽汁ニ排泄出現スルヲ見タノデアリマス。其膽汁中ニ排泄スル機轉ニ關シマシテハ近頃膽囊ヨリ排泄セラル、ト云フ文獻モアリマスガ私ノ實驗ニ際シテハ勿論肝ノ星芒細胞ハ多數ノ結核菌ヲ貪食スルト同時ニ又肝細胞自體モ屢々結核菌ヲ攝取シテ居ル像ヲ見ルコトデアリマスルガ故ニ肝細胞ガ攝取シタ以上ハ勿論膽汁中ニ排泄セラル、可能性ヲ有スルモノト思フノデアリマス。トモカクモ動物實驗ニ於テハ確カニ結核菌ハ膽汁中ニ出現スルノデアリマシテ興味アルコト、思ヒ一寸追加イタシマス尙ホ私ノ之ニ關スル報告ハ大正十四年九月ノ「結核」ニ載ツテ居リマスカラ御覽下サル、ヲ得バ光榮ト存ジマス。

五二、赤血球沈降反應ヨリ見タル肺結核ト腸チフス

大 園 英 夫 君 (福 岡)